

北洋銀行く北のパイオニア

旧拓銀の道内事業の継承、札幌銀行との経営統合で北洋銀行は名実ともに「北海道のリーディングバンク」としての地位を獲得したが、昨春秋のほくほくFGの発足や強固な経営基盤をもつ信金との競争を展開しつつ、かつての拓銀の存在以

上に地域へのコミットメントが求められている。八年に及ぶ「負の遺産」の收拾過程を終えて、なお低成長を余儀なくされる北海道経済の再構築に命運を賭ける札幌北洋ホールディングスの挑戦をみた。

＝高向 巖 札幌北洋ホールディングス社長に聞く＝
北洋銀行頭取

「負の清算」を終え 銀・商・農の協働で活路 企業支援、「貸し拡げ」でリーディングバンクの使命を

旧拓銀の破綻によって生じた北海道経済の混乱はようやく収束したものの、地域経済の停滞からの脱却は容易ではない。北海道のリーディングバンクの使命として、また商工会議所の会頭として、銀・商・農が協力して道経済の再構築の道を開きたい。東京を中心とした本州の大消費地への販路の拡大や、中国への進出など、企業の構造改革を支援していく。



信用コスト減と
証券運用で増益

——この三ヶ月の業績は好調の
よかった

九七年の拓銀の破綻で北海道
経済は大混乱に陥ったが、その

混乱の過程がほぼ落ち着いてきた。銀行の再編成ということでは北洋銀行が拓銀の営業権を引き取り、さらに札幌銀行と経営統合した。他方、北海道銀行は昨年九月北陸銀行と経営統合した。結局、北海道の銀行はかつ

ての四行が二行になったわけだ。

わがグループについては拓銀とのシステム統合・店舗統合・人事統合など、大変な作業を終え、さらに不良債権処理のプロセスが一応終わった。

とくに不良債権処理は苦しかった。もちろん、破綻部分はRCCがやってくれたがグレイ部分の処理はわれわれが取り組んで、大きな案件はほぼ片づいた。それが〇四年度の決算に現われている。収益好転の最も大